

2021年4月15日

スターバックス コーヒー ジャパン 株式会社
代表取締役最高経営責任者
水口 貴文 様

国際環境NGOグリーンピース・ジャパン
事務局長 サム・アネスリー
東京都新宿区西新宿8-13-11 NFビル2F

要望書

世界的な課題である使い捨てプラスチックごみ問題への対応として貴社が進めている対策について、より本質的な問題解決の方向性が求められています。このたび、貴社のお取り組みについて、現状の方向性の見直しおよび今後の対策強化を求める要望書を提出させていただきます。

2020年9月、貴社は従来のプラスチック製カップから紙製カップへの切り替えの実験店舗での展開を発表されました。¹そして、2021年2月9日、紙製カップへの切り替えを全国店舗に広げていくことを発表し²、春に向けて切り替え商品カテゴリーの拡大も目指していると報道されています。しかしながら、紙製カップへの切り替えは、使い捨てプラスチック問題への対策としては不十分であり、より踏み込んだ対応が求められます。そのため、グリーンピース・ジャパンは貴社に対して、繰り返し使える返却式リユースカップの仕組み導入を求める署名キャンペーンを2月18日から展開し、その後2回にわたって貴社広報部との対話をさせていただきました。

世界では、毎年6000億の紙およびプラスチック製の使い捨てカップが消費されています。プラスチックは99%が石油由来で、紙製のものは森林由来です。今回、貴社はFSCミックス認証紙を導入されていますが、大量使用する用途で、林産資材を使うにあたって、事業者が最も重視すべきことは、バージン素材の使用を最小限にすることです。森林認証品の供給は限られており、本来こうした資源は使い捨てられるべきではありません。また、プラスチックや紙の使い捨てカップのリサイクルは困難であり、仮にリサイクルが試みられた場合でも費用がかかるだけでなく、投入される資源量に対してでき上がるリサイクル製品の量が非常に少なく、リサイクルの質の確保も困難です。そのため、紙カップのほとんどはリサイクルされず、埋め立てか焼却されています。気候変動や生物多様性の喪失など地球環境が危機的な状況にある中、今すぐ全てのステークホルダーによる抜本的な取り組みが求められています。

プラスチックごみ問題については、素材に関わらず容器包装全般の見直しが迫られています。毎年20億トンものごみの世界全体で排出されていますが、その主要な要因は1970年代以降大幅に増加している使い捨て製品です。ごみの総量は、2050年までに新たに70%も増加すると予測されています。こうした状況を受け、世界中で使い捨て製品自体を見直す動きが広がってきています。³

貴社のカップについては、素材を替えれば良いという議論ではなく、貴社サービスのライフサイクル全体の課題として捉え、資源の調達から廃棄、自然界流出といった環境・社会的コスト課題を解決する対策を進めていただくことが非常に重要です。

¹ https://www.starbucks.co.jp/press_release/pr2020-3621.php

² <https://www.starbucks.co.jp/notice/20213866.php>

³ <https://canopyplanet.org/single-use-to-systems-change/>

環境問題への取り組みでリーダーシップを取ることを目指されている貴社が、限られた森林資源を使い捨て製品のために大量生産・大量消費し続けることは、Take-Make-Wasteという直線型で循環しない経済システムを温存することになります。

4月5日にはスターバックス コーヒー韓国が、2025年までの使い捨てカップからの100%脱却、およびデポジット制のリユースカッププログラムの段階的な導入を発表しました。貴社においても、同様の発表をされ、「使い捨てない」持続可能な社会をリードしてくださること期待しています。貴社がリユースを基本としたビジネスモデルにいま舵を切るとは、カフェ業界に限らず、その他の日本企業、そして市民のライフスタイルの今後の方向付けをすることになります。貴社が、使い捨てモデルから脱却するための具体的な行動を早期に開始することで、真のサステナビリティリーダーになることを強く求めます。

つきましては、以下を要望いたします。なお、本要望書は弊団体のウェブサイト等で公開させていただきます。

1. 2025年までにReusabilityの割合*を100%に高める目標を2021年内に発表し、下記の取り組みを含める（*店内用マグカップおよびマイタンブラー持ち込みを合わせたリユース容器の利用割合）
 - 繰り返し使える返却式リユースカップの仕組みを全国の店舗に早期に導入する
 - 2021年内に都内で大規模な実証実験を実施する
 - 店内利用においては、全てマグカップ提供に切り替える
 - リユース推奨のため店舗スタッフへの研修および利用者の意識向上に向けた店舗内などでの施策を展開する
 - テイクアウトにおいては、マイタンブラーの利用率を大幅に高める
 - タンブラー利用を呼びかける積極的なコミュニケーションの推進やさらなるインセンティブの設定
 - タンブラー割引に加え、使い捨てカップへの課金を開始し、タンブラー持ち込みへのインセンティブを高める
 - その他、リユース推奨のため店舗スタッフへの研修および利用者の意識向上に向けた店舗内などでの施策を展開する
2. 貴社の米国本社による「Resource-Positive Futureに向けたコミットメント」の日本語版を発表し、日本のウェブサイトに掲載する

以上